

特54

14

龍舟及十八番

矢の根

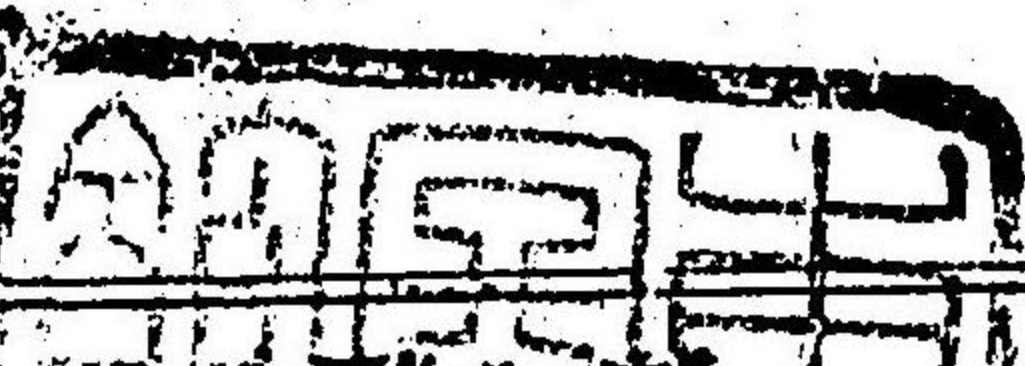
金舟

正本

歌舞伎 十八番 矢の根



十郎家 橋 大薩摩



本舞臺の中足の家体三方市升の上障子上の方浄
り此置のひさし梅の立木但し仕掛け物下手網代堀日
裏より紅白の釣枝上り登に大薩摩太夫居並かたシヤギ
りして舞臺正面海老藏紋付の着付柿の上下下
口上頭取羽織はかきまて付を以口上終つて
去る程に曾我五郎時致の惠方又向つてふとのつと夫
父の仇より俱に天竺和合樂地福開延万巻の軍書のみ北
面のこの雪の朝みせりト大小鼓入り三方障子上る○
矢の根みがいてゐたりけるト鳴物に成り家体の正面又團
十郎吉神矢の根五郎のこしらへ宜敷巨燈籠腰を掛け矢
の根みがいてゐる見えらしるに矢屏風朱の房糸よて三本
大小掛脇矢の根をたてる臺あり

傳へ聞く養由が矢先の高麗唐子近く和朝尋ねれば
鎮西八郎爲朝源三位頼政古今無双の弓勢にまさりす
るとも劣らじと天性普通の氣丈者「虎とみて石に田作
かさ餘矢立の酢半房煮こり太根一寸の剛に昆布の魂
たどはし祐經せち汁鯨の威勢ふるふとも我腕の飾海老赤
の親仁が譲りの面つら〜世上をかんとすの蓋ちりり燗鍋
文福茶釜毛抜鉄の折せでも古がね買に遣り羽子の一夜明
けても舊冬のくさりかたびら小手脚當横に子の日の初寅
も喰合の無い福の神さうで貧乏するから自問自答の悪
たいやしてまをさくまづ大黒の慮外の
「どのさうじや」「ハテ平たん頭巾をぬがぬのさ
「恵比壽の身持がうすきたない」「どのさうじや
「ハテ鯛をおだきて脇の下」「江戸前よてもあれがこ
そ
「精進日に付合れぬ」「昆沙門天の兜頭巾の用心過
てうつとしひ
「布袋の土佛福ろく壽の」「月代するよ手まが入る
「辨才天の船まんぢう波乗船の錢もうけ」「儲けられ

うが賣まいが苦勞するの國土のたわけ

「富貴天にあり」「死生命にあり

「いづれ」「祈るに

「所なし實に顔回ヶ巻に」「一單の食一瓢の飲

「疎食を食ひ水を呑」「脛を曲て枕とす

「たのしみ新造其中ゐるにまうする安煙草煙管かつ

どり吸付て鼻の先なる春霞打詠めつゝ時致の緩〜とし

て居たりけるト海老藏正面に扇子寶舟並添へ

「時に年始の門神者素禮年玉狹箱三弦箱の一調子聲張

上げてものまを」「どうれ

「大きつま文太夫年始の侈禮ヤしまする」「これの

くはやく〜との出語り侈太義に存じますことに年玉と

して末廣並に寶船下され處でサ、奥へ祝ひましよト團十

郎末廣寶船とり出しよろしく見え

「イヤそらの致してのをりますまい方〜でござれば

猶永日の時を期しゆるりと侈意得ませうぞ」「デモ一寸

盃を

「イ、ヤ侈免〜春永にといひ捨てこそ立歸る」「大

薩摩文太夫なればこそ時致がところへ祝ふてくれるもの
のないハテ奇特な男ぢやなア

「其時五郎年玉を開くや扇寶船ハテ氣のついたる年
玉と正月心ろ若輩にうへうらよんでも長き夜の下うら

よんでも長き夜のをの眠りのとろ〜とまた〜く過た

る雑煮ばら」「枕の下へおつかつて敵祐經が首を引こぬ

く夢でも見べいか

「食後の一すい一樂と砥石をぬぐひむぞうさよこれか

んたんの枕ぞとふんぞりかへつて時致の」「ヤットコト

ツテヤアウントコナ

「まばしませるひ高いびきゆたりよこそハ臥しにけれ

ト團十郎砥石枕に寐ることよろしく

「ア、ラムしぎやうた〜寐のかたならさむき風の足舎

兄十郎祐成らつ〜ともないいと色あをさめたるかん顔に

て忽然とあらわれいで十郎長袴色青濱地とさいろの着付

小サ刀梅の仕掛け物にて出る上手」「いかに時致我等はか

らすも今日祐經が館に捕子となり籠中の鳥網裏の魚はか

らんにも力なし急来りて急難を救ひくれよ起よ五郎起よ

時致

「時致夢覺めむつくと起さあたりを見れど人もなくば
うせんとして居たりける」

ト團十郎おき上りあたりを見て

「さての夢中よ兄祐成念力通じてきなんをすくひくれ
よどかたどへば祐經天へ登らば續て登り大地にいらばお
なじく分入り日本六十余列のまのあたり東の奥州外ヶ濱

「西の鎮西鬼界ヶ島」

「南の紀の路熊野浦」

「所の越路の荒海まで」

「人間のかよはぬところ」

「千里もゆけ」

「万里も飛べ」

「イデ追かけんと時致がいさをひすゝむありさまの
そろしかりけるしだいなりかゝる所へ向ふよりト團十郎

うしろの刀をさす向ふより左團次の馬子出る

「馬付大根の春あきなひ大根くとうり来る時致是を
きつと見てこれさいはひとはだせうまあたひの望にまか

すべし」

「馬をかせく」

「其馬かせと近寄れば馬子も氣おつてらうせきなり
左「あきなひ馬にのらんとはびやくらひならぬならない

ぞ

「びやくらいならぬといふところを引つかんで七八け
んエイくゝやつと立まはりわつて下手かき根に左團次を
なげこみ團十郎馬にのる

「手づなおつとりひらりとらちのり手ごろの大根千里
がむち」

「すぐにゆけハ五十町

「廻らば三里三ヶの莊宇佐美久須美河津次男」

「曾我の五郎が馬の程をこれ見よや

「工藤が館へいそぎしはゆかしかりけるしだいなりト
カケニナル見えよろしく木の頭まく

(をばり)

明治廿七年四月廿七日印刷

明治廿七年五月 日發行

定價金七錢

著者 故二代目 市川團十郎

發行者 相續者 堀越 秀

印刷者 岡野 碩

發行所 歌舞伎新報社

印刷所 明教印刷所

東京府京橋區三十三間堀二丁目一番地



